

(9) 八 東 小 学 校

学 校 長 太宰 三和
校内研究代表者 浦田 奈々

1. 研究主題 「見通しを持ち、自ら学ぶ授業づくり」

2. 主題設定の理由

本校は平成30年度から、「授業と家庭学習のサイクル化」を中心にした授業づくりに取り組んできた。児童の実態から課題を見つけ、その課題から具体的な手立てを考えた学習活動を展開し、さらにその結果から次の課題を把握する、というように繋げ、どこでどのような資質・能力をどう育てていくのかを、定期的に検証を加えながら校内研究を進めてきた。

昨年度は、これまでの取り組みを生かしながら全学年が算数科において、1単元あたり1回以上予習を生かした授業づくりに取り組むことができた。研究授業の際には事前研で指導案を基にした模擬授業を行い、予習の活用やとも学びの場や内容などについて焦点化した意見交換を行った。その上で研究授業を行い、校内研の柱である既習を生かした予習課題の設定や、ゴール（本時の学習を経て何ができるようになるのか）につなげるめあての工夫、板書計画の改善、より深まりのあるとも学びにつながる発問の仕方などを効果的に協議し、日々の実践に活かしていくことができた。また、学習規律についても学びの力アンケート（年3回実施）の結果共有など全学年で徹底した取り組みを継続したことにより、聞く態度やベル着、正しい姿勢等が前年度より改善した。そこで、今年度は昨年度までの取り組みを継承しながら、検証の機会と内容の改善を図り、取り組みの質を高めていきたいと考えている。

研究授業については、今年度も算数科を中心とした主体的かつ対話的に学ぶ児童の育成をめざした授業づくりの研究に取り組んでいく。令和3年度の全国学力・学習状況調査（6年）の結果や、高知県学力定着状況調査（4・5年）、CRT検査（1・2・3・6年）の結果から、数と計算、データの活用の領域に弱さが見られたり、時刻や長さなど生活に生かす問題でつまずきが見られたりした。また、学力の定着に個人差が見られ、学力の底上げも必要となる。本校がこれまで取り組んできた算数科授業改善を続けることで、学力の定着をより確かなものにしていきたい。

本校の児童は、素直で何事にも一生懸命取り組める児童が多い。昨年度の実践から、とも学びの時間に、予習で考えてきたことを絵や図、数直線、文章、式を用いて自分の言葉で説明し合い、自由に話し合うことができつつある一方、既習内容の定着状況や、問題文の理解が弱いことなどから、予習課題を自力解決できていない児童もいる。その改善策として、その単元における数学的見方、考え方がある一定身に付いてから既習の内容が生かしやすい場面で予習課題を設定したり、自力解決に至らなくても、児童の「ここまで分かった。」ということが言える力を養っていったり、あるいは自力解決できるための基礎基本の定着に向けて復習も大切にしたりする取り組みを進めていく。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究仮説

算数科の学習において、次のような手立てや指導の工夫を行うことにより、「見通しを持ち、自ら学ぶ授業づくり」を達成することができるだろう。

- ① 目的意識と必然性を持たせ、児童が自ら思考したくなるひとり学びやとも学びの設定をする。
- ② その時間の課題に対して自分なりの考えが持てるように予習を活用する。
- ③ めあて・ゴール・まとめを明確にし、学習スタンダードに沿った授業を展開する。
- ④ 単元を通してつけたい資質・能力がついた児童の姿（単元ゴール）を明確に持ち、その時間のゴールや学習の流れの提示（時刻付き）などを提示するなど、児童が学習の見通しを持ちやすくするための手立てを工夫する。
- ⑤ 毎時間、とも学びの時間を設定し、その評価を行うことで、とも学びの内容や質を検証する。

(2) 研究の重点内容

- ◎授業研究 研究内容（算数科）主体的・対話的な授業づくり
- ◎家庭学習の習慣化と質の向上 ◎読書活動の推進

4. 今年度の取り組み

(1) 研究方法

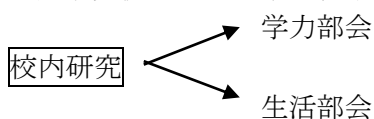
①主体的・対話的な授業づくり

○授業研究

- ・ 八束小授業スタンダードに則った授業
- ・ 全学年による算数科研究授業
- ・ 低・中・高のブロックでの教材研究、指導案検討
- ・ 模擬授業等の事前研や事後研
- ・ 講師招聘による学習会、外部講師による授業視察、助言
- ・ 予習の活用、授業の流れ（時刻）、ゴールの掲示
- ・ とも学びの工夫、焦点化、見開きノートづくり、ICTの活用、小中相互の授業参観

○授業力チェックアンケート、学習のふりかえりを計画的に活用し、授業改善を図る

○実践交流を通して取り組みについての確認



※全体研究日 第1・2・4水曜日（14:45～16:40）

※全員が2部会の何らかに属して、全員で研究を推進する

②家庭学習の習慣化と質の向上

- ・ 家庭学習の手引き
- ・ 自主学習ヒントカードの活用（家庭訪問でも確認する）
- ・ 自主学習ノートコーナーの設置、自主学習ノートの掲示、自主大賞表彰で質の向上を図る
- ・ 予習を生かした授業づくりの研修 ・ 家庭学習の状況調査

③読書活動の推進

- ・ 朝読書を設定（毎日8:25～8:35）
- ・ 年間達成目標の見直し、必読書の選定
- ・ 目で見て分かる冊数掲示
- ・ 高学年による読み聞かせ（年3回）
- ・ 読書ボランティアによる読み聞かせ（年9回）

(2) 研究を支えるための取り組み

①基本的な学習規律の徹底を図る

- ・ ベル着、姿勢、話し手を意識した聞き方
- ・ 正しい学びの姿勢、話し方 ・ 聴き方のフローチャートの活用

②朝会やチャレンジタイムの充実を図る

- ・ チャレンジタイム…前学年の基礎的な算数プリントから行う（月・火・木 13:45～13:55）
- ・ ぐんぐんタイム…1年＝（木）6校時 2・3年＝（火）6校時 4～6年＝（金）7校時
- ・ 加力指導…（月・火・木 15:50～16:10）授業の未定着部分の復習などを行う
- ・ 発表朝会…学級ごとの発表とし、感想を伝える（各学級2回ずつ）
- ・ 学習朝会…学級で表現力や読み取る力を高める取り組みを行う

火：文章力向上 木：漢字の読み書き 金：言葉のきまり、ひらがな・カタカナ50音

③新聞の活用、全校児童による新聞づくり

④挨拶・返事・後片付けがきちんとできるように取り組みを続ける

⑤「げんきっこ」の取り組みを基に考察し、基本的生活習慣の定着を図る（年7回）

⑥体力向上についての取り組み

- ・ 体力テスト ・ 「わたしたちの体育」を活用した体育の授業の質の向上
- ・ 朝マラソン、朝運動の実施・縄跳び集会・体力アップ朝会（年10回）・外遊びの奨励
- ・ 全校レク（金 13:05～13:20）・保健朝会（年3回）



5. 今年度の成果と課題

(成果)

今年度も、昨年度の取り組みを生かしながら全学年が算数科において、1 単元あたり 1 回以上予習を生かした授業づくりに取り組むことができた。研究授業の際には、事前研で指導案を基にした模擬授業をして、意見交流を行った。研究の視点を明らかにした上で授業を行うことで、復習や予習となる家庭学習の課題の設定や、つけたい資質・能力をつけるためのとも学びを仕組む発問や指示などの全体検討を行い日々の実践に生かすことができた。また、今年度から事後研では、ジャムボードを使い、記録を保存することができた。

授業につながる予習課題を設定することで、ひとり学びでの時間が短縮され、とも学びでより考えを深めることができたり、既習事項と本時の学習の違いをより意識させることができたりした。また、児童は予習をすることで、授業で安心して自分の考えが言えるようになり、教師が予習を出さなくても自主的にノートに予習をしてくる児童も増えてきた。どの既習事項を使うかが分かり、授業のパターンが読めるようになった結果、自主的な予習が定着していった。また、今年度は、家庭学習に復習となる課題を出すことで、既習事項との違いを意識しながら本時の課題と共通する考え方で課題解決させる授業と家庭学習とのサイクル化に取り組むことができた。

今年度から、つけたい資質・能力をより意識させるために「単元の流れ」や学習指導案に単元ゴールを明記するようにした。学習リーダーを中心とした児童主体のとも学びでは、教師がとも学びのチェックシートを毎時間記録し、集計結果をもとに授業改善を行った。とも学びでの気づきを児童が黒板にまとめたり、目的意識と必然性を持たせるために教師が指示や発問を工夫したりすることで、とも学びの質が高まってきた。とも学びでの ICT 活用も校内で共有し合い、他学年に広げることができた。見開きノートづくりでは、年度当初にふり返りのスタンダードを見直し、算数ノートの 1 ページ目に貼ることで、児童に振り返りの視点を意識させるようにした。算数用語や授業の大事なポイントがノートに残るよう板書の改善を図ることや、数直線など思考ツールの書かせ方を研究することで、児童はノートづくりを工夫する力が身に付いてきた。さらに、今年度は隣接学年での見開きノート交流を 3 回行い、児童の意欲づけを行うこともできた。

児童の学習規律も全学年で取り組むことにより、聞く態度や、正しい姿勢等が昨年度よりさらに改善した。

読書活動では、年度当初に年間目標をページ数から冊数にしたことや、図書室に児童の借りかえ冊数を視覚的に掲示したことで、児童自身にも目標達成できているかがわかり、図書室を利用する児童が増え、年間目標達成率も昨年より大幅に伸びている。

(課題)

既習を基に課題解決できるような予習や復習の課題の出し方にさらなる工夫が必要である。また、予習課題を自力解決できない児童もいる。改善策は、予習・復習をしやすい時間を明らかにし、効果的に家庭学習に組み込んでいくことや、学習指導要領をもとに教材研究をし、授業改善を行うことである。授業では、家庭学習を活用しながら、より質の高いとも学びを目指すために、絞り込んだ指示や、発問 1 つ 1 つの見直しも必要である。児童が主体的に学ぶ授業づくりができるよう、さらなる研究を深めながら、基礎的・基本的な学力の定着を目指していきたい。

